福島経済マンスリー

2月の県内経済は、生産活動が厳しい状況にあるものの、全体では持ち直しの動きが強まっている。

1．平成25年2月の県内経済

項　　目	コ　メ　ン　ト	景況判断	
		変化方向	水　準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動が前年を下回る水準で推移しているものの、全体では公共投資や設備投資、住宅投資を中心に持ち直しの動きが強まっている。	↗	晴れ一部曇り
消費動向	大型小売店販売額は、飲食料品を中心に前年を上回り、17ヵ月連続で前年比で増加した。一方、新車登録台数は、2ヵ月連続で前年を下回った。	→	晴れ一部曇り
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が4ヵ月連続で前年を下回ったが、請負金額と保証金額は19ヵ月連続で前年を上回った。	→	晴れ
設備投資	民間・非居住用建築着工は、床面積が2ヵ月ぶり、棟数および工事費予定額が5ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。	↗	晴れ
住宅投資	新設住宅着工戸数は、持家が2ヵ月ぶり、貸家と分譲がそれぞれ6ヵ月連続で前年をそれぞれ上回ったことから、合計でも6ヵ月連続で前年を上回った。	↗	晴れ
生産活動	鉱工業生産指数は、2ヵ月連続で前月を上回ったが、8ヵ月連続で前年を下回った。	→	曇り一部雨
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値で前月を下回ったが、原数値で前年を上回った。一方、雇用保険受給者実人員は前年を下回った。	→	晴れ一部曇り

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（↗：改善、→：不変、↘：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は1月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良い ← → 悪い

2．県内経済動向の概要

(1)　前年同月比

（単位：％）

	項　　目	前年同月比					
		24年9月	10月	11月	12月	25年1月	2月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	6.2	3.0	8.2	6.7	0.9	3.4
	乗用車新車登録台数	6.0	4.0	6.5	8.2	▲ 0.5	▲ 5.5
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	98.8	128.0	82.0	87.6	52.4	83.6
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	172.0	123.5	54.2	23.9	147.1	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	76.3	90.0	43.9	41.8	3.8	106.2
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	▲ 7.8	▲ 5.3	▲ 3.7	▲ 5.6	▲ 7.0	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	0.37	0.40	0.44	0.47	0.45	0.41
	雇用保険受給者実人員	▲ 59.1	▲ 54.7	▲ 50.7	▲ 46.2	▲ 35.2	▲ 28.4

注1　原指数

(2)　前月比

（単位：％）

	項　　目	前月比					
		24年9月	10月	11月	12月	25年1月	2月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	▲ 9.7	5.5	2.3	27.5	▲ 19.2	▲ 10.6
	乗用車新車登録台数	12.6	▲ 12.6	7.0	▲ 21.2	25.3	11.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	▲ 12.0	0.7	▲ 31.9	16.4	▲ 44.0	31.4
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	215.1	▲ 2.2	▲ 48.6	0.2	26.6	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	30.4	30.0	▲ 9.3	▲ 21.7	▲ 13.2	32.1
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注2	▲ 0.2	▲ 2.3	▲ 0.6	5.0	0.6	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	▲ 0.03	0.02	0.07	0.08	0.05	▲ 0.01
	雇用保険受給者実人員	▲ 8.5	0.4	▲ 5.4	▲ 4.0	6.5	▲ 4.8

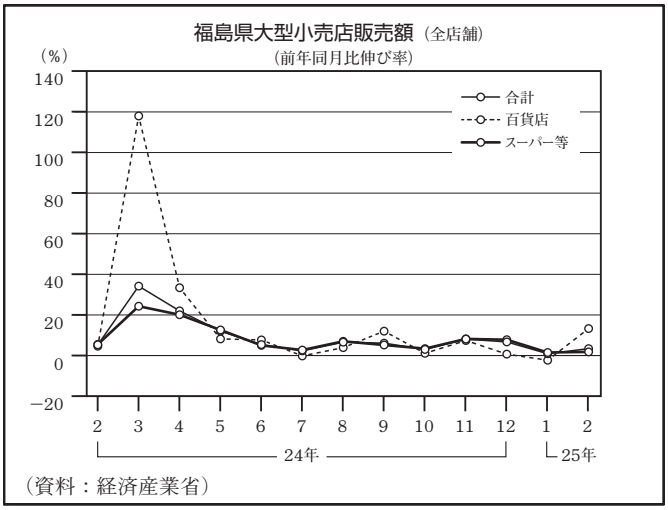
注2　季節調整値

3．県内経済動向

消費動向

大型小売店：17ヵ月連続で前年比増

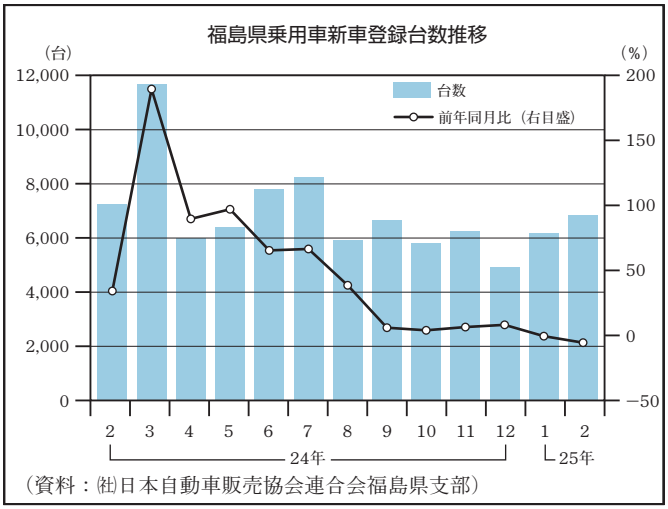
２月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で181億10百万円（前年同月比＋3.4％）と17ヵ月連続で前年を上回った。業態別でみると、百貨店は、衣料品、飲食料品とも前年を上回り、合計では前年比＋13.3％となった。また、スーパーは、衣料品が前年を下回ったものの、飲食料品が前年を上回ったことから、合計では同＋1.8％となった。



（資料：経済産業省）

乗用車販売：２ヵ月連続で前年比減

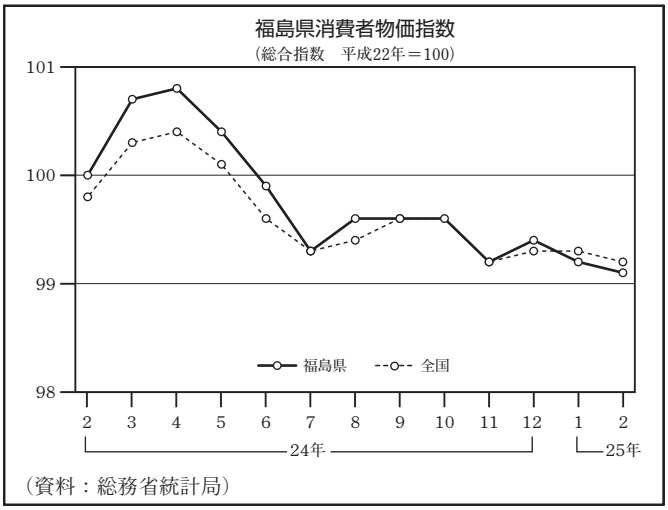
２月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で6,849台（前年同月比△5.5％）となり、２ヵ月連続で前年を下回った。車種別でみると、普通車は1,893台（同△6.1％）、小型車は2,205台（同△15.4％）とともに２ヵ月連続で前年を下回ったが、軽乗用車は2,751台（同＋4.8％）と17ヵ月連続で前年を上回った。



（資料：㈳日本自動車販売協会連合会福島県支部）

消費者物価指数：前月比で0.2％減

２月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年＝100）でみると、99.1と前月比で△0.2％、前年同月比で△0.9％となった。費目別にみると、「家具・家事用品」の97.1（前月比＋2.5％）など３費目が前月比で上昇したが、「被服及び履物」の95.0（同△1.5％）など４費目が前月比で下降した。

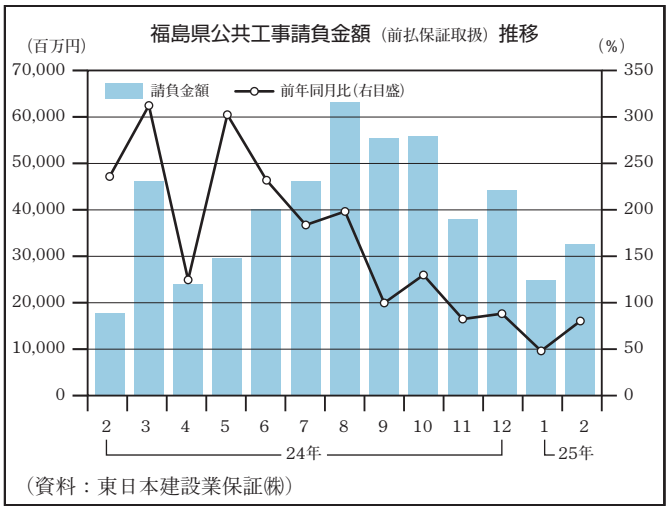


（資料：総務省統計局）

公共投資

公共工事：請負額は19ヵ月連続で前年比増

２月の公共工事前払保証取扱は、件数が422件（前年同月比△23.1％）と４ヵ月連続で前年を下回った。一方、請負金額は326億２百万円（同＋83.6％）、保証金額は145億77百万円（同＋65.4％）となり、それぞれ19ヵ月連続で前年を上回った。

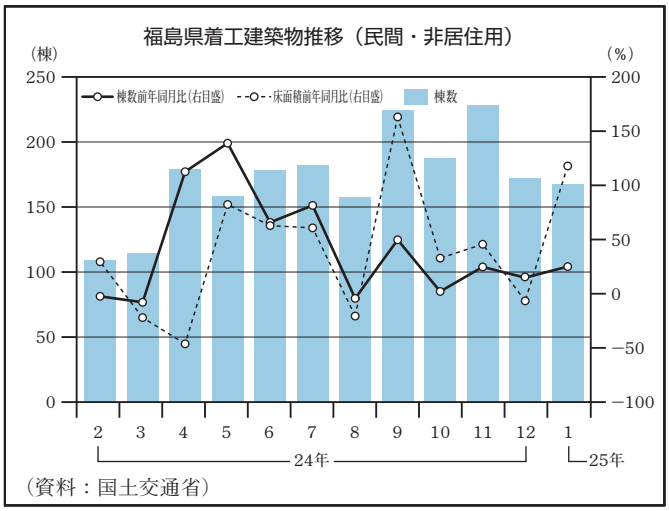


（資料：東日本建設業保証㈱）

設備投資

設備投資：工事費予定額が５ヵ月連続で前年比増

１月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が167棟（前年同月比＋25.6％）、工事費予定額が123億22百万円（同＋147.1％）とともに５ヵ月連続で、床面積は75,846㎡（同＋118.4％）と２ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。

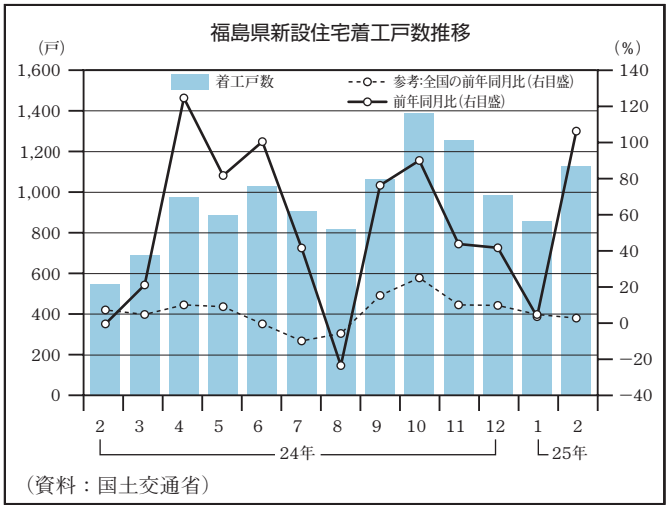


（資料：国土交通省）

住宅投資

住宅建設：６ヵ月連続で前年比増

２月の県内新設住宅着工戸数は、1,128戸（前年同月比＋106.2％）と６ヵ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は572戸（同＋69.7％）と２ヵ月ぶり、「貸家」は364戸（同＋109.2％）、「分譲」は176戸（同＋388.9％）と６ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



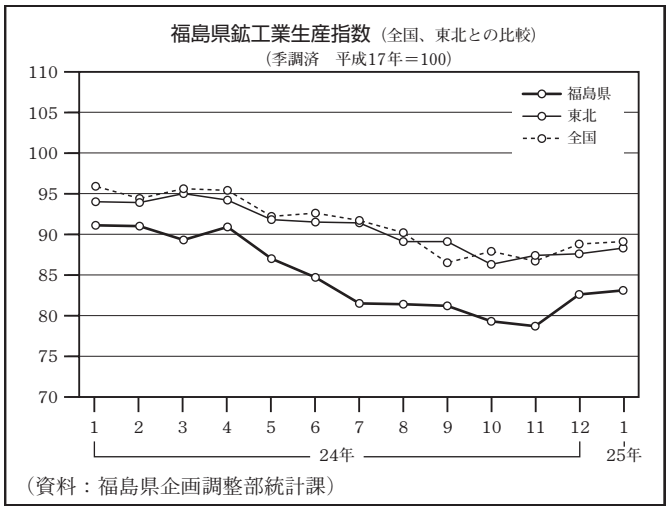
（資料：国土交通省）

生産活動

鉱工業生産指数：８ヵ月連続で前年比減

１月の鉱工業生産指数は、83.1(季節調整値)で前月比＋0.6％と２ヵ月連続で前月を上回ったが､原指数は74.7で前年同月比△7.0％と８ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「精密機械工業」（前月比＋48.1％）など12業種で上昇し、「化学工業」（同△19.7％）など８業種で下降した。

※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約３％の企業の生産額は０として処理している。

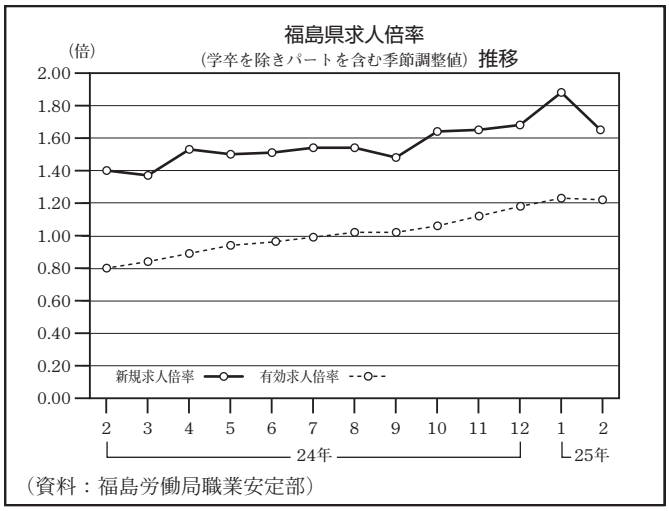


（資料：福島県企画調整部統計課）

雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は35ヵ月連続前年比増

２月の新規求人倍率は、季節調整値が1.65倍（前月比＋0.25ポイント）、原数値が1.66倍（前年同月比＋0.24ポイント）となった。また、２月の有効求人倍率は、季節調整値が1.22倍（前月比△0.01ポイント）、原数値が1.24倍（前年同月比＋0.41ポイント）と35ヵ月連続で前年を上回った。一方、２月の雇用保険受給者実人員は7,541人（△28.4％）と12ヵ月連続で前年を下回った。

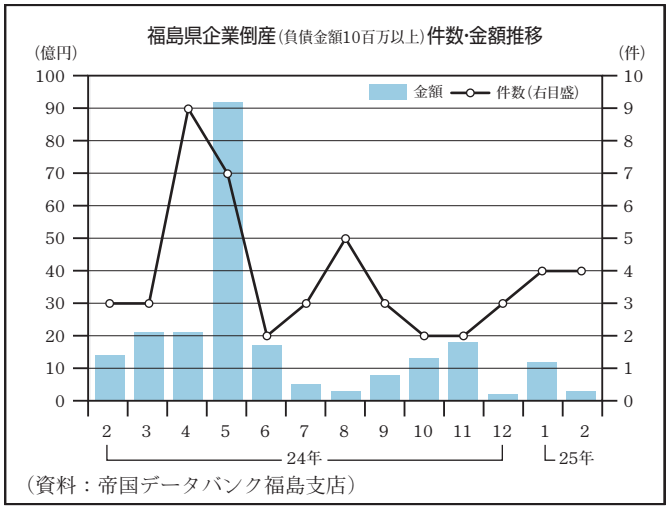


（資料：福島労働局職業安定部）

企業倒産

企業倒産：件数は前年比増、金額は前年比減

２月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が４件（前年同月比＋33.3％）、負債総額が３億40百万円（同△76.0％）と件数が10ヵ月ぶりで前年を上回ったが、負債総額が３ヵ月連続で前年を下回った。また、業種別でみると、小売業が２件、建設業とサービス業がそれぞれ１件となった。

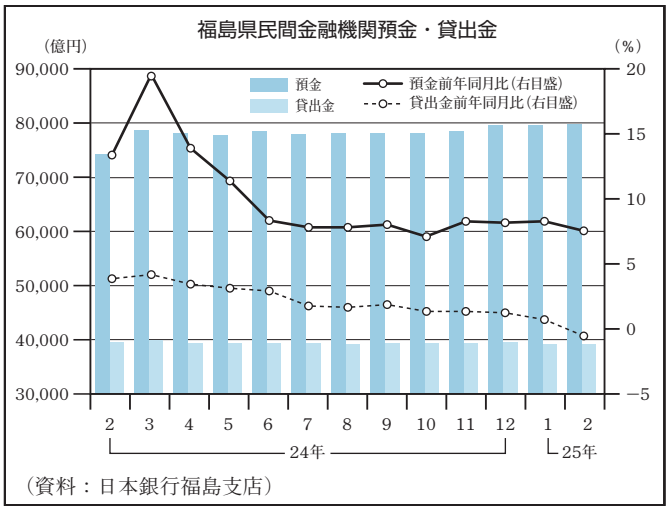


（資料：帝国データバンク福島支店）

金融動向

資金需給：預金は前年比増、貸出金は前年比減

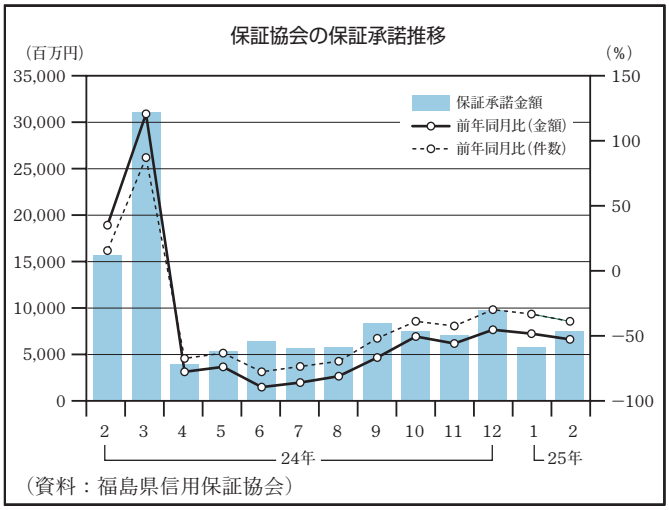
県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の２月末の預金残高は、７兆9,906億円（前年同月比＋7.5％）と72ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、３兆9,199億円（同△0.8％）と20ヵ月ぶりで前年を下回った。



（資料：日本銀行福島支店）

保証協会：保証承諾は件数・金額とも前年比減

２月の保証承諾は、件数が722件（前年同月比△38.7％）、保証金額が74億67百万円（同△52.6％）となった。また、２月末日現在の保証債務残高は、件数49,391件（同△0.9％）、金額4,727億49百万円（同△5.2％）となった。一方、２月中の代位弁済は、件数が39件（同△11.4％）、金額が４億18百万円（同△10.7％）となった。



（資料：福島県信用保証協会）

４．業種別動向

消費動向

家電量販店　２月の家電量販店の売上高は、スマートフォンや冷蔵庫、エアコンの売上が前年を上回ったものの、テレビやDVDプレーヤーなどの落ち込みが大きく、合計では前年を20％程度下回った。

ホームセンター　２月のホームセンターの売上高は、飲食料品などを中心に前年を上回り、合計でも前年を10％程度上回った。

旅行　２月の旅行取扱額は、国内旅行が企業などの団体向けを中心に堅調だったものの、海外旅行が前年を下回り、合計でも前年実績を下回った。

高速道路　２月の県内自動車道出入台数は、合計で4,213,001台（前年同月比△44.2％）と８ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,322,135台（同△46.8％）と９ヵ月連続で前年を下回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は364,789台（同△44.4％）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は557,853台（同△50.4％）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は968,224台（同△31.1％）となり、それぞれ８ヵ月連続で前年を下回った。

福島空港　２月の福島空港国内定期路線の利用状況は、14,245人（前年同月比＋6.8％）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は6,243人（同＋5.2％）、大阪便は8,002人（同＋8.1％）となった。
（国際定期路線は全便運休）

生産活動

化学　２月の食品包装フィルム用合成樹脂は、円安効果が生産活動にはまだ波及しておらず、欧州向けが低調であることに加えて、中国の需要が減少傾向にあることから、総体では前年を下回る水準となった。

鉄鋼・金属　２月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が中国の需要が回復してきたことなどから、前年比で10％程度増加した。一方、半導体向け電子材は、円安効果がまだみられず、低調な欧米経済の影響や新興国の製品との競合などから、前年を10％ほど下回った。建機用鋳造品は、中国以外のアジア諸国やオーストラリア、アメリカの受注が堅調だったものの、中国の受注が減少したことから、合計でも前年を20％以上下回る生産となった。さらに、陸舶用バルブは、火力発電向けの受注残はあるものの、それ以外の受注量が低下していることから、前年を10％程度下回る生産となった。

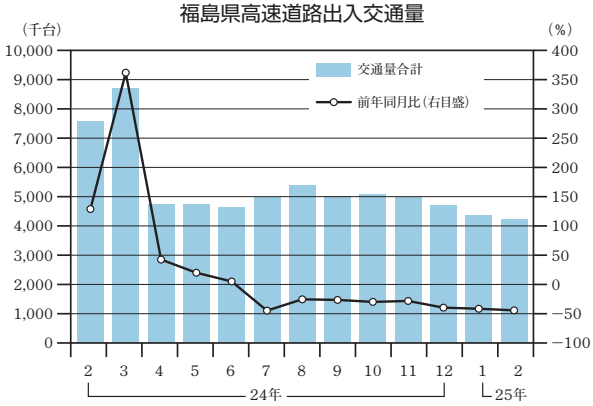
輸送用機械　２月の鋳造品は、トラック向けではタイが堅調だったものの、インドネシアで一服感がみられたことなどから、合計では前年を下回る生産水準となった。また、カーナビおよびカーオーディオも、米国の需要が上向いているものの、円安効果はまだみられず、在庫調整もあったことから、前年を10％ほど下回る生産となった。さらに、オイルシールも、中国の需要が振るわないことなどから、前年比で約10％の減産となった。

電気機械　２月の車載および産業用モーターはほぼ前年並みの生産を確保したが、変圧器および配電盤は前年比で減産となった。

情報通信機械　２月の情報通信機械は、国内向けモバイル基地局が堅調な生産を続けたが、マイクロ波通信機器などの無線通信機器がインドを中心に海外需要が減少し、昨年の生産水準が高かったことなどもあり、合計では前年を20％程度下回る生産となった。

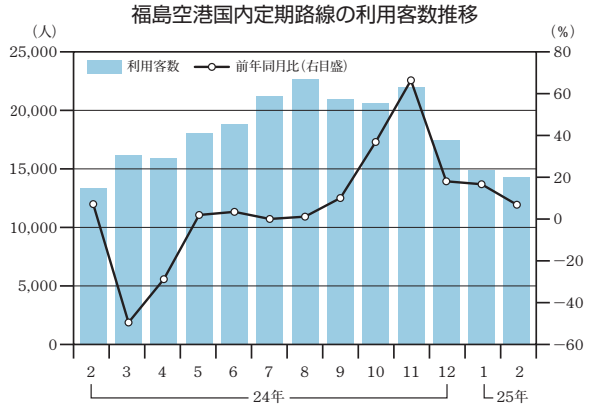
電子部品・デバイス　２月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品およびＡＶ・ゲーム機・家電、産業機器向けが半導体の需要が依然として低調なことなどから、いずれも前年を下回った。

福島県高速道路出入交通量



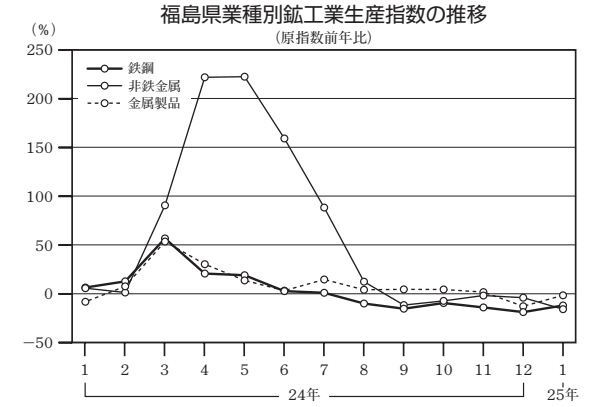
（資料：東日本高速道路㈱東北支社）

福島空港国内定期路線の利用客数推移



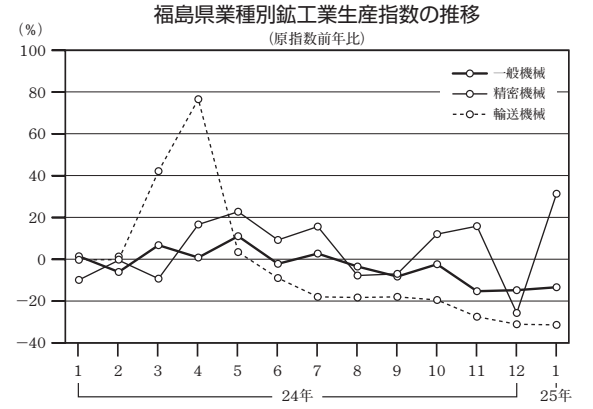
（資料：福島県商工労働部空港交流課）

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
（原指数前年比）



（資料：福島県企画調整部統計課）

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
（原指数前年比）



（資料：福島県企画調整部統計課）

精密機械　２月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値新製品に加え、国内向け新製品による増産もあり、合計でも前年を上回る生産となった。一方、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、欧州の需要が回復しないことなどから、前年を30％ほど下回る生産となった。

紙・紙加工品　２月のノーカーボン紙および感熱紙、インクジェット紙とも、円安により輸入品が割高となり始めたことなどから、前年を10％ほど上回る生産となった。

窯業・土石　２月の生コンクリート出荷量は、全体で137,990㎥（前年同月比＋23.1％）と19ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、民需は、相双地区が原子力発電所保安対策工事、白河地区が工場新設工事などにより、前年を上回ったため、合計では前年比で＋10.8％となった。また、官公需は、いわき地区の岸壁復旧工事や災害復旧工事、相双地区の海岸保全施設整備工事など、６地区すべてが前年を上回り、合計では同＋37.7％となった。

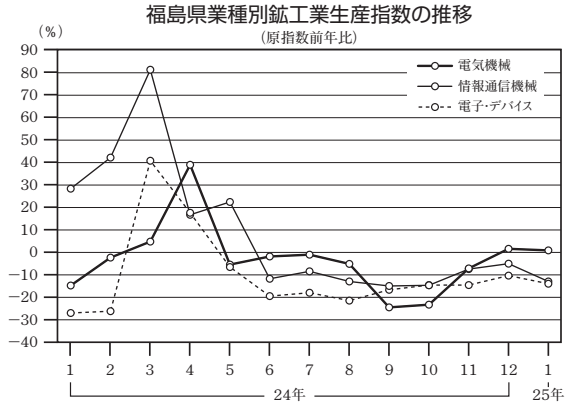
清酒　２月の清酒移出数量は、1,110kℓ（前年同月比△8.0％）と11ヵ月連続で前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が451kℓ（同△1.3％）と２ヵ月ぶりで、一般酒（特定名称酒以外の酒）が659kℓ（同△12.1％）と11ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

化合繊織物　２月の化合繊織物は、数量ベースでは前年を20％ほど下回った上に、単価の低い製品の割合が高いことから、金額ベースでは前年を大きく下回った。

ニット　２月のニットは、春夏物製品を中心とした生産となり、全体では前年を20％ほど上回る水準となった。

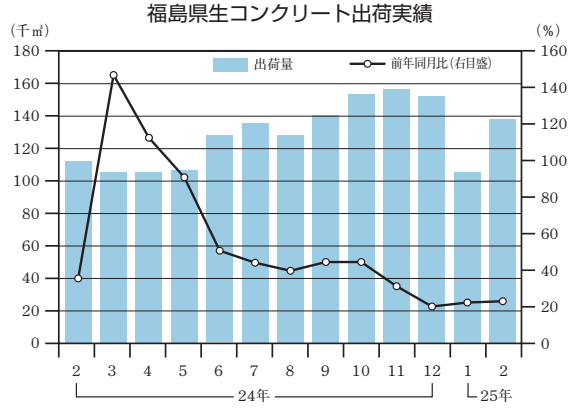
大口電力　２月の大口電力販売量は、424百万kw/h（前年同月比△16.6％）と７ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で79百万kw/h（前年同月比△41.5％）、「電気機械」で72百万kw/h（同△14.2％）、「輸送用機械」で53百万kw/h（同△10.7％）、「化学」で41百万kw/h（同＋1.4％）、「一般機械」で24百万kw/h（同△9.0％）、「紙・パルプ」で15百万kw/h（同＋18.2％）となっている。

福島県業種別鉱工業生産指数の推移



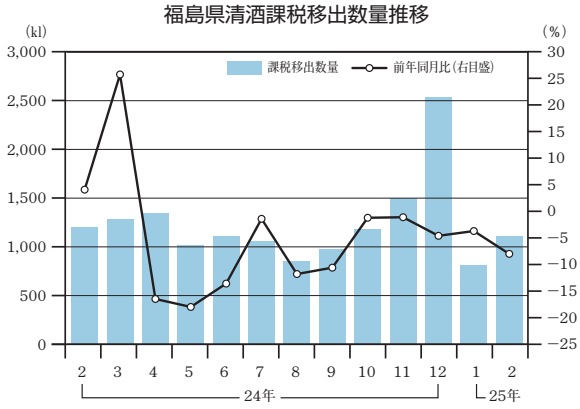
（資料：福島県企画調整部統計課）

福島県生コンクリート出荷実績



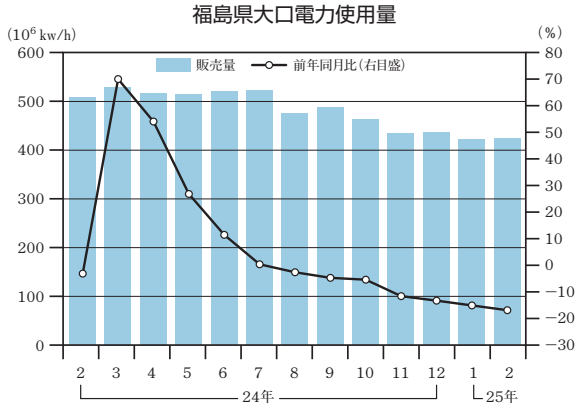
（資料：福島県生コンクリート工業組合）

福島県清酒課税移出数量推移



（資料：福島県酒造組合）

福島県大口電力使用量



（資料：東北電力福島支店）